

# 小樽・後志地域における北前船の歴史的価値の観光資源化 プロジェクト代表者：北川 泰治郎 プロジェクトリーダー：高野 宏康

## 1. プロジェクトの目的・概要

- 本プロジェクトの目的は、小樽と後志地域に重要な役割を果たした北前船の調査研究を通じて、その歴史的価値の地域資源・観光資源化を推進し、小樽と後志地域をつなぐ新たな広域連携・観光ルートを開発することです。
- 調査研究では、小樽・後志地域の博物館や個人所蔵の資料調査、史跡調査、ヒアリング調査を実施し、北前船による物資の流通や人的交流などの影響関係を分析しました。
- 調査研究の成果にもとづき、北前船の歴史的価値の地域資源化・観光資源化の取組みを行いました。また、本プロジェクトの成果を小樽・後志の広域連携・広域観光資源として持続・定着化させる取組みを推進しました。

## 2. 具体的な取組内容

- 小樽・後志地域における北前船の歴史的価値についての調査研究  
(小樽・後志地域、道南の寄港地、博物館・資料館などの資料調査・ヒアリング調査)
- 北前船ゆかりの地ツアー(「北前船の足跡を訪ねる見学会」小樽再生フォーラム：2015.5.30)
- 一般市民向け講演など(小樽市民大学講座「小樽の歴史文化の発掘と観光資源化」2015.7.28)
- 学会・関連団体への情報提供(全国北前船セミナー、後志総合振興局「酒と肴」会議、など)
- パネル展の開催(「北前船主がつくった石造倉庫群」：2015.9.9-24)
- 商品開発協力(「岩内練茶漬け」、連携先：合同会社いわない前浜市場)
- 成果をまとめたガイド冊子発行・展示パネルの作成(『北前船と小樽・後志』)
- 教育プログラムへの組み込み(地域学、グローバリズムと地域経済、日本経済史)
- デジタルアーカイブによる情報公開・共有(「しりべし歴史文化デジタルアーカイブ」)
- メディアでの情報発信(『The JR Hokkaido』2016年1月号、『読売新聞』2016年3月12日付、など)
- 研究論文の発表(「北前船と小樽」「小樽・後志地域の船絵馬」) \* H28年度刊行予定



船絵馬の発見記事(『北海道新聞』2016.3.24)



冊子『北前船と小樽・後志』



JR小樽駅でのパネル展

## 3. プロジェクトの成果及び地域への還元

- 小樽・後志地域における北前船の歴史的価値についての調査研究では、①同地域と北前船との関連で、特に多くの老舗菓子店のルーツが北前船寄港地と重なること、②小樽を代表する石造倉庫(旧大家倉庫)に関する新出資料から同倉庫の小樽での活動実態を明らかにしたこと、③小樽・後志地域の北前船寄港地に「船絵馬」が多数のこざれていることが新たに判明し、広域観光資源として高い価値を持つことが確認できたことなど、多数の成果を上げることができました。
- 調査研究の成果を地域資源・観光資源として地域社会に還元するため、上記取組を実施し、①小樽・後志地域の北前船の影響関係に基づくヒストリカル・ツーリズムによる広域観光・地域連携の推進、②講演会、ガイド冊子、デジタルアーカイブ等による情報発信・共有、③教育プログラムに組み込み、④学会や関連団体講演、新聞・雑誌などメディアでの情報発信により、本プロジェクトの成果を持続・定着化させる取組みを推進しました。